

# 議 事 録

## 1. 開会

## 2. 座長あいさつ

## 3. 議事

### (1) 協議事項

#### ①本宮市第2次総合計画の進行管理について

##### (委員)

- ・評価区分について、参考評価を設けた理由を教えて欲しい。

##### 《事務局》

- ・本宮市第2次総合計画の計画期間が2019年度からとなっている。成果指標の実績値が、総合計画の計画期間より前の2018年度以前の数値となっているものについては、参考評価とした。

#### 分野1 子育て・教育

##### (委員)

- ・子育てに関する相談など総合的な援助をする「子ども家庭総合支援拠点」の設置と記載してあるが、具体的にはどのような内容なのか。

##### 《子ども福祉課》

- ・平成28年の児童福祉法の改正に伴い、2022年までに全市町村に設置が義務付けられたものである。地域のすべての子どもと家庭を対象とし、相談や虐待等に対応する専門性を持ち、母子保健部門と子ども部門が一体となった機能のことである。

##### 《事務局》

- ・新たに施設を作るといったものではなく、ソフト面での事業である。

##### 《座長》

- ・成果指標の一時保育等利用者数がE評価となっているが、何が要因として考えられるのか。

##### 《幼保学校課》

- ・2019年度については、令和元年東日本台風の影響により第1保育所が利用できなくなり、五百川幼保総合施設に移ったため、一次保育の受入人数が減ったことが要因と考えている。今年度については、プレハブを設け受入体制は整えたが、新型コロナウイルス感染症の影響により減少している状況である。

##### (委員)

- ・一時保育等利用者数については2017年から減少しており、また、産後ケア事業の利用者が少ない理由として、「身近に支援をしてくれる人がいる」「上の子はみてもらえない」といったことが挙げられている。一時保育等利用者が少ない理由として産後ケア事業と同じように、

身近に支援をしてくれる人がいるのであれば、市民は困っていないこととなる。別な理由であれば、その点を改善すれば良いことになるが、利用者が減少している理由を把握しているのか。

《幼保学校課》

- ・一時保育については、満1歳までの子について利用することができず、一次保育を利用する理由によっても、1ヶ月で利用できる日数も決まっている。出産の間、上の子を見てほしいなどの申込みがあれば受入れているが、利用限度日数や定数等により受入れられず、家庭で見ることができる場合は、お願いすることとなる。改善が必要などところを見直していけば、利用者数も増えていくと考えている。

(委員)

- ・単に利用者数を伸ばすことが目的ではなく、困っている人を助けることが一番の目的だと思う。指標として表れる数字のみではなく、困っている人の把握など指標以外の内容についても考える必要がある。

## 分野2 健康・医療・福祉

(委員)

- ・成果指標の3大生活習慣病による死亡率と国民健康保険医療費について、目標が全国平均以下となっているが、参考までに全国平均値を教えて欲しい。

《事務局》

- ・資料2の指標の説明欄にそれぞれ全国平均値を記載している。

(委員)

- ・今後の取組方針として他部署との連携が必要であると記載されているが、現段階で検討している具体的な内容はあるのか。

《事務局》

- ・今後、市長を議長とする庁内の会議を開催し、目指すべき目標は同じであることをベースにしながら、どのように部署間で連携していけるのかを協議していく。また、このような部署間の連携を考える仕組みを構築していきたいと考えている。

(委員)

- ・がん検診と女性がん検診の受診率が低い理由は、何が要因として考えられるのか。

《保健課》

- ・受診率は推計対象者数を分母としており、推計対象者数は職場で受診する人も含まれるため、実情を表した数字でないものとなっている。

(委員)

- ・受診率がそのような数値であれば、がん検診事業をどのように評価していくのか。

《保健課》

- ・国はがん検診の受診率の目標値を50%と示している。本市では、検診を受けるかどうかの意向調査を行っており、職場で受診すると回答する人もいるが、受診率には反映させていない

ため、実際にかん検診を受診している人数は多いと想定される。

《事務局》

- ・企業に勤めている人でも、企業で健診を受けられない場合も想定される。そういった人に対して市として企業への支援も考えていく中で、相対的に受診率が向上していくと考えられる。

(委員)

- ・がん検診の種類にはどのようなものがあるのか。

《保健課》

- ・がん検診は、胃がん・大腸がん・肺がん・前立腺がんの4種類を行っている。女性がん検診は、子宮頸がん・乳がんの2種類を行っている。

《座長》

- ・これらの検診は毎年行っているのか。また、受診率もそれぞれ算出しているのか。

《保健課》

- ・検診は毎年行っており、受診率もそれぞれのがん検診で算出している。

(委員)

- ・がん検診を受けるということは、がんを早期に発見し、死亡率を下げることに繋がると考えられる。市内においてがんで亡くなった人数などの統計はとっているのか。

《保健課》

- ・毎年、死因についての統計をとっており、市の検診を受けたのかどうかなども確認している。

(委員)

- ・がん検診の受診とがんの死亡率の関係などを見ていくことも、事業の検証には必要なことだと思う。

《座長》

- ・今後、より深刻な状況となると、成果指標や施策全体の見直しが必要だと思う。

### 分野3 経済・産業・仕事

(委員)

- ・本宮高校の3年生に就職希望先の理由について聞き取りを行ってみると、職場見学や企業説明会など、直接企業に触れることで働いてみたいという意識が生まれることがわかった。高校生には、特定の企業だけではなく、できるだけ多くの地元企業に触れる機会を設けることが必要だと思う。地元企業説明会や就職相談会、企業見学バスツアーは効果的な事業だと考えるが、より多くの機会を設けられるよう、市と連携しながらより効果的な方法も検討していきたい。

《商工観光課》

- ・企業見学バスツアーについては、昨年度より始まった事業であり、企業も3社と偏ったものとなっていたので、より多くの企業を見学できるようにすることが必要だと思う。

《事務局》

- ・本宮高校の生徒は地元志向が強いということを伺ったこともあるため、3市村とハローワーク合同での就職相談会等を行っているのに加え、昨年度初めて企業見学バスツアーを行った。

この取組みについては、継続して行う必要があると考えている。

また、開催する時期については、進学を希望する時期などを考慮しながら、何学年で行うのが効果的なのかを高校と協議していく必要がある。

(委員)

- ・本宮市には白沢地区にも大きな工業があり、優良な企業が多くあるため、地元で働くには良い環境だと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を企業も受けていると思われるが、現在、雇い止めなどを行っている企業はあるのか。

《商工観光課》

- ・企業からはそのような情報は入ってこないが、就職相談会等では、雇い止めなどの相談が寄せられているため、新型コロナウイルスの影響を受けていると思われる。

《座長》

- ・学生の今年度の就職活動はそれほど影響を受けていないようだが、来年度は大きく影響を受けるのではないかと考えている。

(委員)

- ・生産年齢人口に対する就業人口の割合が72.5%ということは、約1/4の人が働いていないということである。他の市町村や国の平均値を把握していれば教えて欲しい。

《事務局》

- ・手元に資料を持ち合わせていないため、後日議事録と併せてお示しする。

#### 分野4 生活環境・都市基盤

《座長》

- ・成果指標にリサイクル率が設定されているが、リサイクル率は何を分母にしているのか。

《生活環境課》

- ・分母については、本宮市で1年間に発生した可燃不燃物の合計となる。分子については、資源物として回収された量となる。

《座長》

- ・ごみ総量としては年々増えているのか。

《生活環境課》

- ・令和元年度については、令和元年東日本台風の影響によりごみの量は増加した。平成30年度は9,500トンであり、令和元年度は10,109トンのごみの量が排出された。

(委員)

- ・成果指標の1人当たりのごみ排出量は年々減少しているが、ゴミの排出量が減っているということか。

《事務局》

- ・人口が減っているなかで、ごみの排出量は増加しているが、リサイクル率が上がったため、1人当たりのごみ排出量が減少していると推計している。

(委員)

- ・以前、郡山市に住んでいたが、ごみの分別はそれほど求められていなかった。本宮市ではごみの分別をしっかりと求めているが、成果指標のリサイクル率の目標を達成するために、より厳しくごみの分別を求めていくのか。

《事務局》

- ・目標値の設定については、過去に24%以上の時があったため、その数値を目安として設定した。

各指標の目標値については担当部署で設定しているが、現実的な数値を定める場合と、理想的な数値を定める場合があり、リサイクル率については、最大値を目指すこととしている。

《座長》

- ・成果指標のリサイクル率は、ごみの量に対して資源物として回収された量を表すものであり、本来は、ごみの量を減らすことが大切である。

(委員)

- ・本宮市は分別をより厳しく求めているとのことだが、他の市町村に比べてリサイクル率が高いという数値は出ているのか。良い数値が出ていれば、市民へしっかりと分別されていることを伝えることが大切であり、それが市民のモチベーションをあげることに繋がると思う。また、環境学習とはどのようなことを行っているのか。

《生活環境課》

- ・二本松市と大玉村はビニプラごみがプラスチック製容器包装ごみより多く出され、本宮市はまだそのような状態ではないため、ごみの分別をしっかりと行っている。

《事務局》

- ・ビニプラとはビニール・プラスチックごみのことで、水色の袋のものであり、燃やしている。プラスチック製容器包装ごみは透明な袋で、本宮市の場合は、分別をしっかりと行っているという説明である。

《生活環境課》

- ・環境学習とは、各地区に環境委員会が設けられており、地区からの要請に基づき、ごみの排出状況等について説明する出前講座などを行っている。

また、安達地方広域行政組合でごみに関する副読本を発行しており、小学校4年生へ配布し学習している。

(委員)

- ・資源回収を行っている団体があると思うが、学校のPTAなどが行っている資源回収も指標のリサイクル率に反映されているのか。また、リサイクルは必要な取組みだと考える。

《生活環境課》

- ・各地域の資源回収の取組みについても、リサイクル率に反映されている。

## 分野5 市民・行政活動

(委員)

- ・成果指標のNPO団体数は、毎年同じ団体ということか。また、町内会の加入率が年々減少しているが、加入を断られる理由について把握しているのか。

《事務局》

- ・NPO 団体については、毎年同じ団体である。

《生活環境課》

- ・近年、アパート建設やミニ開発による宅地造成が増えており、若い人を中心に転入世帯が増加している。加入しない理由に関する詳細な調査は実施していないため推測となるが、若い世帯を中心として、町内会に加入するメリットや必要性の認知度が低いこと、地域コミュニティ形成の大切さについての意識が低いことなどが要因と考える。

昨年の台風災害での経験において、町内会に加入していない世帯に対する対応の難しさ、地域コミュニティ形成の難しさ等に関する各行政区長からの意見をもらっており、今後、区長会連絡協議会との連携を図りながら、町内会加入率の促進につながる事業構築を検討していきたい。

(委員)

- ・町内会に加入していない人には、広報もとみやや議会だよりなどは配布されないのか。

《生活環境課》

- ・基本的には町内会に入っていない世帯に対する取扱いは、各町内会の判断に委ねており、町内会の中には、アパートの大家さんからの相談や個別的な相談により、市の広報誌等の配布協力をしているところはある。しかし、町内会に入っていない場合、広報誌等が届かない世帯は多く存在している状況である。

(委員)

- ・アパートの管理会社や不動産会社等に協力を依頼し、町内会加入に向けての事業を展開してみるのも1つの方法であると思う。
- ・市の防災行政無線の受信機は、住民登録をしないと貸与してもらえないため、購入した経緯がある。できれば、町内会費を払っていれば受信機を貸与するなど柔軟に対応してもらいたい。

(委員)

- ・自主防災組織を金銭面で支援しているが、自主防災組織を継続していくために、金銭面以外の支援も必要だと考える。サポート事業などを検討して欲しい。

(委員)

- ・成果指標の地域づくり活動参加者数とはどのような内容か。

《生活環境課》

- ・各大字単位で地域づくり振興会を組織しており、地域づくり振興会の会員数を記載している。なお、各振興会で行う事業の参加者数については、把握していない。

②地方創生関連交付金事業等の検証について

(委員)

- ・ふるさと納税の方法について、本宮市は手続きが行いづらいという話を聞いたことがある。改善されていないようであれば見直しを検討して欲しい。

《事務局》

- ・今年度、ふるさと納税ポータルサイトの導入を予定しており、納税者の利便性の向上を図っていく。

4. その他  
なし。

5. 閉会

以 上